



仕事ばかりの弊がい 頭痛で悩む人の暮らしぶり



憧れの外国で、生活している人が。
実は、悩みを抱えて、来局をしたのです——。

休日もなく仕事を…

ニューヨークで20数年間、デザイン関係の仕事をしている、50歳ぐらいの男性がいます。日本料理のお店で使う食器のデザインも、手がけておられるようです。

その人が、「頭痛がヒドイ」と、仙台のお母様に連れられて、来局されました。

細かい仕事で、目をよく使うそうです。もう何年も頭痛で悩まされており、ニューヨークで複数の医師にかかっているといいます。

診断名は、偏頭痛ではなく、ただの頭痛。結果、どこへ行っても鎮痛剤を出されるだけで、ウンザリしていました。

ニューヨークでは、漢方や指圧、マッサージは保険が利かないので、何回か試しただけ。ようやく2年ぶりに帰って来た仙台で、指圧へ行ってみたといいます。

初めて東洋医学の考え方を聴き、「なるほど」と思うところがあり、ウチに来局されたそうです。

お話をお聴きして分かったのは、その方は、交感神経が興奮しっ

ぱなしで、休日もなく、いつも頭の中は、仕事、しごと、シゴト。

筋肉はこわばり、血流も悪くなっていました。実際、肩甲骨の内側から首筋にかけて、非常に張っていたのです。

ストレス発散が大切

そこで、温感の貼りグスリを、その場で使っていただきました。すると、すぐに温まり、「気持ちがいい」といいます。

せんきあんてん
閃輝暗点の主たる症状であるギザギザは見えないものの、光が眩しく、音がうるさく感じられるとも。これも閃輝暗点の一種のようです。

ニューヨークでの食べ物をうかがうと、パスタが主食で、日本料理店では寿司を食べることも多いといいます。

コーヒーは離さず、マイ保温ボトルにコーヒーを入れて持ち歩く日々なのだとか。その日も、ポットにはコーヒーが入っていました。

京都のくきほうじ茶を出してみると、その香りと味に、とても感

激を。しかも、ポットのコーヒーを捨てて、くきほうじ茶をいただいでいくというので、ポット1杯分、プレゼントしました。

この人は、ストレスの発散ができていない人でした。

ストレス発散法をはじめ、肩甲骨を開いたり閉じたりする体操について、お話しをすると、「やってみる！」と前向きです。

しかし、忙し過ぎて、当日には、ニューヨークに帰って行かれました。しばらくして、メールで体調を尋ねてみましたが、返事は返ってきません。

相変わらず、忙しくされているのでしょうか、案じているところなのです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生



プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「厳しい暑さの中、どうか、ご自愛ください」